

**日本学術会議 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会
GEWEX 小委員会 第 25 期第 2 回会合 議事要旨**

日時：令和 4 年 12 月 22 日（木） 10:00-12:00

会場：遠隔会議（Zoom）

（主催会場：東大大気海洋研究所気候システム研究系高叢研究室（柏キャンパス））

出席委員：高叢 縁委員長，松本 淳副委員長，増永 浩彦副委員長，鼎 信次郎幹事，
高谷 祐平幹事，沖 理子，沖 大幹，荻野 慎也，梶川 義幸，金 炯俊，佐藤 友徳，高橋 洋，
田中 賢治，大楽 浩司，寺尾 徹，仲江川 敏之，森 修一，芳村 圭，山田 朋人，米山 邦夫
（出席委員数 20 名，定足数以上で成立）

欠席委員：重 尚一，樋口 篤志

議題：

1. 議事要旨の取り扱いについて
2. 委員間のメールアドレス共有について
3. GEWEX Open Science Conference の日本招致について
4. その他

配布資料：

1. 第 1 回会合議事要旨
2. 資料 1: 日本学術会議 令和 6 年度共同主催国際会議申請書
3. 資料 2: 第 9 回全球エネルギー水循環計画国際会議内容案
4. 資料 3: 第 9 回全球エネルギー水循環計画国際会議への著名な国外・国内参加予定者
5. 資料 4: 第 9 回全球エネルギー水循環計画国際会議組織委員会の構成案
6. 資料 5: 会議の主題となる学問分野及び近年の研究成果
7. 資料 6: 前回会議報告
8. 資料 7: GEWEX 国際事務局について
9. 資料 8: 会議の収支予算表

議事録:

1. 議事要旨の取り扱いについて

議事録の最終的な取りまとめを委員長、副委員長、幹事に一任することに合意した。
また、本会合の議事要旨、発表資料は学術会議に配布資料として提出する。

2. 委員間のメールアドレス共有について

委員間のメールアドレスの共有について合意した。GEWEX OSC のメーリングリストについても設置した旨、報告された。

3. GEWEX Open Science Conference の日本招致について : 松本委員、山田委員

本会合では、以下の項目について説明及び議論した後、学術委員会に共催申請することを改めて合意した。

(1) GEWEX Open Science Conference 招致に向けた経緯

松本委員より、学術委員会に提出した令和6年度共同主催国際会議申請書を元に説明があった。

- ・日本学術会議へは国際会議共同主催の申請書を11月30日に提出した。(申請前にメールにて本委員会に照会済み。)
- ・気象学会秋季大会(札幌)の際に関係者と相談し、会場の都合なども勘案し、令和6年7月8日(月)-11日(金)、札幌(京王プラザホテル、駅から徒歩3分)での開催という形で招致することとなった。
- ・学術会議の共催として開催する場合、市民公開講座を7/7(日)に開催する予定である。
- ・来年5月のGEWEXのSSGで最終決定だが、GEWEX側で事実上内定となった。
- ・今週から書面審査が始まっており、書面審査の通過後、1月25日か2月10日にヒヤリングが予定されている。

(2) 国際会議内容案(資料2)

前回のカナダでのGEWEX Open Science Conferenceの日程、プログラムを参考に、全体的な流れや想定されるトピックを記載した。具体的な日程案の作成にまでは至っていない。ポスター、展示も行う可能性はあるが(スペースはある)、現段階では未定。

(3) 組織委員会の構成案(資料4)

・組織委員会の構成案が紹介された。組織委員会の委員長は山田委員。ジェンダーバランス等も重視して候補者を検討した。今後、組織委員会の構成もさらに詰めていくということで、合意した。

(4)その他(資料3,5,6,7)

- ・予算案(資料8)を含め、その他の資料についての説明も行われた。
- ・2023年から2024年にかけての各時期における準備スケジュール案も示された。

(5)一般質疑・意見

○JAXAでも前向きに議論を進めている。組織委員会やアドバイザリーのメンバーという形でも貢献したい。また、予算面でのスケジュール的なところについてもお教えいただきたい。

高薮：財源の予定についてであるが、これまでは民間企業からの出資はなかなか得られなかったが、昨今はTCFDなどの動きもあり、今回の国際会議については民間からの出資(たとえば企業展示による)についても期待したい。

○関連予算支払いは23年度と24年度のものがあるか。

山田：その通り。

○：現地開催のみか？

松本：その予定である。

米山：来年5月のSSGには、より具体的な、科学的な内容も含めた文書の提出が必要となるであろう。

○AsiaPEX、AMYについての会合とのシナジーも考えたい。(Open Science Conferenceの前後に会合を検討したい。)

○GPM10周年のシンポジウムとの連動も考えられる。

○モンスーンパネルを実行側に組み込むなど、WWRPとの連携についても考えるとよいであろう。

高薮：本年度中にもう一回本小委員会の開催を予定する。

(6)当該国際会議準備における本小委員会の役割について

- ・当該国際会議の準備における本小委員会の役割について確認した。学術委員会の支援を得る場合は、本小委員会です承を得るのが良い。節目節目で本小委員会に報告し、了解を得たい。